1 5
1623
2

門イ号
號 1623
巻 2

京都帝国大学附属図書館

芳洲先生たちまれ無科中

塞翁のむまれさるくハ得せいつるもちゐ失ふとあり失と

つるもちゐ得ることあるまでにはるとよろこびとをふるたるこそ

失つもちゐれてとまるにさるこそは事ハいつるよしなしせい

つるもるまでよろこびくまで秦ハ長城を築なるは悪政ハ第

一なれど弟ハ弟ハふせごとハ秦ハ城をまでおーきるもちゐ

ようき事あり参者ハはぐなる良策いなるまでど補ふ

き病ハ補ひ人ハいるもちゐあやまるふがよれるもあーきす

あれなるがよいひ者といつるほど者ハ紀ハなるれど

鬱南拳ハ兵をもちていさめ郭巨ハ穴ハうめんとせーハ

藤原侯爵家蔵書

い 57218

忠孝のうちよりほかのことはなく、
ひたすらにものごとかんがへ、
ものしりむきのことのみ、そのことかとも
なりてなりまぬるは、勇猛のをとこ
世のみだれをかへ、勇猛なる人ならんあるとは、
私はなくみをもて、人をころし、そのところをうばひ、
どもらはまことに大なるはなし、人なれどもれいをもこの人
なりとて、いづれの国もかくのごとくつまらぬなり、
そもそもいとけなきときは、乱後の餘風除のごとくやう
まがまがしき事をなすはあるべし、
父母のあるうへにもまた天下にせばくいつれも、国の事世

世の乱国となるこのうれへ、弾令かの国をおうべきを、
凶作いまに叛逆まぬくの風儀をもつ、さる時の事なるべ
し、今はすでにやまとにはほとんどなびかぬ者あり、
なくめて立ちて一統の御代なれば、人のおやなるべし、
そのあらばいかにもしてさるべき世、其つくるべし、
できるはそのよりおこるべきのせおうを生殺の權をもつ、
ハいかなるゆちうれ、
めいしかるべきふやつとあれば、とがなきおやあにまでも、
よおくなるべくいかるべ、
そもみなどもてあるべかるべ、功あるべ人のあとも

なくれば、そもそもなることの、父母あるものをつまびきこうれ
しみ、流浪をすることあり、さほどいろいろといふべし
喧嘩（ケンカ）は成敗（リヤウヒイハイ）といふ事、昏墨（コンボク）賊（ゾク）はいろいろ、いつる春秋傳（シユンシユウテン）の
れいもいろいろ、考（タウセン）なり、いろいろ事あるべきなるべ
おほやけ、ものあり、そもそもいろいろ、其法なぬ
をびたおなじ、贓（ザウ）吏（リ）は棄市（キシ）といつる、宋祖（ソウソ）の法（ハフ）なる
べし
姦夫淫婦（カンフインフ）死刑（シケイ）なるおろかはなく、中国（チウコク）の法きれうといふ
べし、おろそ乱国（ランコク）は重典（ヂウテン）をもちひ、治国（チコク）は軽典（ケイテン）を
用ふといつるもあるべし、法をもちふる事、時代と国のい

きほひとなるかんがへ、斟酌（シンシヤク）をくわへ
中国（チウコク）の律（リツ）の書おろかなるもれば、顧典（ケンテン）なるといつる人わたし、
されど鄧析（トウセキ）の竹刑（チクケイ）をたつる、産子刑書（サンシケイショ）残（ノコ）るを、いな
なるといつる残るは、律の書なるもきれるやはらろ
ハ唐（タウ）の刑法志（ケイハフシ）なるも論せず
服忌令（ブクキリヤウ）ハ、そろそろ一の喪制（サウセイ）なるべし、古服（コフク）の親（シン）をうらぐ
かたあるべし、父母（フボ）の喪ハ、舊令（キウレイ）なるべし、その外ハ日をもて
日なるべしあるべ、人々恩義（オンギ）の輕重（キヤウチウ）をもつて、のた
をけなるといつる人あるべ、ものとおもつ
その中れをけさるべ、もてなるやいつるべ、あ

中ゝ鬼神のまもりてまつりたいぶこと生きる人のた
えるまもる我おもふこゝろ　ふるまひかろきふうあひといひみ
ハいくひとあつ花月家人たなどこゝはなどこゝみと
つゝこのもてなしに音楽とつゝのなくばいうてこの
よろこびをたまぐきまれもなく聖王起歓おこりた
まもぬむかしいづまの国ゝそれ国ゝの音楽ハある
なりこゝろ唐山韓天竺西洋呂宋でんぢくそのをらんだるそんなどいへ
ば国まで〻れそのくるぐ乃音楽ある我又て自然のこ
ゝろいかゝまぶぐし

自注此言楽之所由起也

虞夏商周いづれもこゝ〻のの代なまとその楽のおなじうら
ぎるこゝ時代のちぐひあれハなるこゝ至人をこゝて中国
よむまあ〻めバ中国のこゝよ我ゐんぐ楽をたこゝろふ
べゝるれぐまこと一揉時代こゝてあこゝもぐ虞の楽夏楽夏ゐ用ふべ
うこゝぐ夏の楽商楽商ゐ用ふぐうこゝ商の楽周ゐ用ふべう
らぐ我又てこゝろ唐山韓かの楽ハ中国ゐこゝちぐうこゝさ
ふ事をまこゝぐし異代こゝゐれ楽を今ゐこゝちひこゝ異国ゐの
楽を中国ゐ用ひこゝこゝおいこゝこゝの一方ハもて百
病を治せんこゝこゝにおく〻人の心を感じて風移こゝう
ー倭易をかこゝるのこゝをけこゝてなこゝるこゝ

自注此言唐土之樂不可用也

伶人(レイジン)の傳(ツタヘ)ふるゝ樂(ガク)ハ、そもゝ〳〵かゝの樂のこゝおほくに國にて
ほうこくまつりごとのうち廟樂(ビヤウガク)もあまたゞおほくこゝハ俗樂(ゾクガク)
まて、きうもうらちきうとばうあて、唱歌(シヤウカ)ハなしふるさ
異國(イコク)らくくんの事、に國よつゝきうきかゝ人ゝでもめてた
くおもひふるゝぞるる事ゝハあれどそのくふなる
つゝがゝ音樂(オンガク)ほどにとゝきのハなしふるくのゝろ
おのづゝうゝ閑靜(カンセイ)ゝなゝ好事(コウヒ)ゝにおもゝぶるゝ人ゝハいでどそのの
國よ太應(タイオウ)しゝきゝふゝれ樂をきゝていろゝおゝし
ろゝいそゝくしくなるぞ成ぎんよおぼゆるを樂ぬけう

の中ゝきゝよあゝぐ、ゝくゝくの音(コヱ)なれば異國ゝ
に國の樂(ガク)といつるを、雅(ノウ)なるぐゝ樂ぬゝぐひこゝてふづきゝの
ゝまゝくあれどそのゝきゝ音ゝきゝこゝかゝねふゝちふづき
ゝもあゝぐ、雅(ノウ)ハおほ公やけのふゝまひゝ、下ゝくのなぐ
ゝみまで、第世(イクヨ)ゝとなゝきゝをゝ、ゝきゝのもゝをゝ、ゝきいや
しゝあゝぐゝとゝてみべし、ゝきゝの音調節奏(オンチヨウセツソウ)ハ舊(フルヒ)ふるゝきよまゝこゝひ
ゝきゝ唱歌(シヤウカ)ゝうゝ弦ゝとゝくゝあゝあ、に國の樂とけぐゝあ聖人(セイジン)ゝ
よおゝろ、ゝきゝの樂をゝにゝ弦ゝをゝもゝちゝあゝばゝを、ゝ一乃
ゝきゝをけゝとゝてなゝるゝし、實(カイ)ゝてなゝきゝし、ゝさしど其ゝきゝをゝ
にゝきゝ事、ゝきゝやゝきゝきよあゝぐ、ゝきゝのゝふゝきよ

ぞとおぼくろみいこじきまゝ法あるて人情事理をタツしき
うもやまをそばよくはたらく人なるでハたらくも其
益エキあるそじかしとい難つゝ
をさなる幼我そだてる育ちハたらひまらるはようもんの上
よわたくてこころれまうたをハせあしをでたきちてこる附ハ
公おもだいまちまらるせをきなるおハきこもをはかまを次第
こめるせどもといつるをしつるまるこひたこるこのたう
皇
ゑたこるこ風もはるもあるこてそたこるなるそひ
こひこのいたそぐこるこハあしこれどおぼこるこハそのこて
ろるまこそどいてこて病やまひもなくたこるやこうるおひを生

つづたこる幼ウキ家のかるこまれ幼をなるるハかしたき傳
ここるなどいつるこのおぶるてしくたこるこひ風ゑきた
まるつづたこるれたこるこるんやまこハたけづる
どこるやといひくやたこうなるこるの幾重ゑいくもこるセ着食ひ
このハたこるこまかけたどしたこるひまこるたる叶まこるづめ
いつづたこるこるあてたこるちづるたこるれハあしれたこるれ足
もおのづこるおこくこるちやセほるかこるこくおこるひこるざ
れやまひおこるてそぐちづこるれのこるこ子しハ云イフ
まおこるぶづたちこる乳母こるこるハかしづたまでかくハたるま
したる事とおこるこるあれどたしハたいたこるあるてハと

その子れ事のをおそひていひもいぶせくあるをおろう
つてかむつくのけるいしたぎ(上)をもあり人の血気(ケツキ)ぬけてうせれいづる(生)さきつときい
やしさなる事このかたるものあんやふるさ言葉(コトバ)の
るをぬらつうむいやまたるぬそなふゆちんなく
といつをおそひあはせてこなしそでおぼゆ
ある年うけくるぬをもちしひとめづらしされあるうよ屏風(ビヤウブ)
ゑをさまをしようひはなくいだき(抱)せおきくるをもをし
七夏(ナツ)の事なるあつさ(暑)をてくるかるふぐして
いぶきくるみそうあるうて黄疸(フウダン)のごとく病(ヤミ)て死ぬ

ぬるれのいとぐるを死をうんををなるいさぞ必
れをふるるもなくうつくしむ(慈愛)のそなるなるとと
をきるぬるちをそれがる事さくあるぐさるも
あるねどるれる似ることはおほしとぞ
あるもるさるのつるさせる人(民)さるぬるつるれるろ
ふるくいのるるてとれをふあるるふるを文(フミ)をも考(カンガ)
ぬるるの困れかるるれいるるれいあるくといへ
ふるとどもとるあつるるをかるせるあれはかるれど
きびくいひをくるるるきえどもるるなるるるめる
とぐ下(シモ)ぬるるをるるるるなどおほ(多)るるんるるを

教ハ、ものの世話あるものをなくしたるに、むつかしき事
さへの事はなれぬ人ハ、ようげのうちよりそうもあ
うなるものゆいよほどなるまハ、まことにそうふとくおかゆ
きとそのあとはぐれハ、のてたるのうしみとそな
アるべきなり。郭橐駝といつるもの、樹物植る事をいひ
しるべきなり。おばえ伝ふ

自注孔子有無鄹之譏子産有郭殺之誦物アるまでハ民莫
興慮始ることもしよう。死人のとる事ハ先よりこと
事なるんと思ひそのをそく物アるまでハ得失を論ず
ことハ段のうるふ是非あるべし

いうほどもちろんかしこきんも作田たるときハ事ハいとやすしなくそのの
事物なれぬ父母妻子物やーなるものるハ及ばざるもの
もあるべきぶつくいまれもちろんもあるかの国ハ地ちうて
かうてよろしうれども国うてハさハなるがしといつる事も
あるゆゑにまことにアるべきなり。老農老圃よりとハい
ひ物アるあ。ある国ちうしえ所ちうのをでめて国なまを
しの時ハ国ハ民ともよをく知るフみいうてうめ作んやと。
下部
きてぶのくのもひてまるしよぶきやう物のまく農業をおこ
さるべき所屋敷のまうをうる事耕宅をつくべ方
ハ百姓中一百姓ものもゆぐんせぎるやうよ知をべしわるてす

べうぶ・右ハ庄屋井へ・のこ・おほせつけ・それ・そのほうハ年く米穀をつくる豊凶を見て年貢運上あるひハかろめ或ハゆるし・それぞれ・やみ・ものとかれる人あるべきてひとちなるべし

漢れ世掌故文学といつる官ばまりけられ・ふそのぬ大臣ばそもそ・兎州県の法をまで・おほるハ武功のほうもて・石学れ人おほるし・ゆえなくとおぼゆ・也国もそのとみをもれ人を・国とよめ・おうく・ハいつまでもかくあ・ことと事なわ・ろうし・魏晋れろ・門地をたつとぶといふ事もしもわ・庄の学をもてハ・ろ・侍賊をもて人をとういつなく浮

華れなるはしとなるしゆえ武功をもてこそ・人をハ武夫悍卒といひく・いやしめられど・文臣のねぎけ・ぐるしきもの・ろうゆ・ろれる人おほ・ろし・李晟張延賞ぐ事など・ろ・あ・ろて・ろ・ぐし・漢の世・ぐ・ろ・人をとふ事とぬ・ぐ門地をとふ・むといつるもなく・まく人をとふ・賊をもて・ろ・ろもあ・ん・ぐれく武功あ・ろ・ちろわ・人ぐ・ろ・しといつる・ぐ・ろ・ぐ・そのろ・ぬ・ろ・ぬ・人れ・ろ・あ・世のいろ・ぐ・ぬ・しき・ぬ・ん・ろ・ん・ハ勇不勇ばろ・のこなるべ・才徳もろ・ぬ・あ・ぐ・ぬ・なるゆ・ろ・ゆ・ろ・ろ・ろ・ろ・ろ・ろ・て・文武乃用ありといられ・人をとなるべ・也国も世の中ぐ・ろう

しかるに国々の主おさまる人は武功をもつぱら
人にゆづりそれむまごまで分のたしなみあるて世やすく
もなく上下おさまれば武をもつぱらとする人多
かるべき筈のことなれども似ようといつぐし世のをさまる
ことなく頽廢にいたりてあはれなる人
なのほうまひ〳〵今世のをさまりたる人な
ることもあるべきことにぞあんやとうれへあるべき人
おほしとぞ

芸窓筆記云或曰某公以創業元勲儼處鈞軸之任處分
謀畫照耀史冊唯其不學可謂粳楠之微朽矣曰漢初亭

相操行氣節可稱大臣之職者多出於不學無術之武人
如曹參周勃申屠嘉周亞夫霍光是也其他出於文臣者
大抵碌〻無可齒者獨有一公孫弘文章才術非他人比
然曲學阿世徒以欺愚俗尓及其衰也所以喔咿嚅唲
保寵固位欺時君長厲階結姦黨以煽兇焰遂成賊莽移
鼎之謀如谷永杜欽張禹孔光之徒者豈非當時所謂碩
儒耶然則武人未必可訾而文臣未必可信蓋心術正則
文采風雅雖有不衍足自可以居輔相之位否則徒足以美
觀聽而已矣其於天下國家復何益乎後世學者心術之
不修而唯文學之是務本根之不究而唯繁文偽飾之是

急幾乎孟子所謂放飯流餘而問無齒決可慨也夫難江
戸定後上自大藩下逮侯國凡主乎政治者皆從斬將
搴旗中出然大抵朴實謹慎不敢放縱而操行氣節卓然
不群者亦復不少蓋其心術正也及至近世文教稍興人
誦詩書然率皆非養望自高則依阿取容比諸昔時未見
其髣髴蓋其文華勝而心術有所不足也鄉里無醫藥而
病人寡都邑有醫藥而病人多非醫藥之能害人也酒色之
人而恃乎醫藥所以致病也此言也可以警諸心術不正而
徒誦詩書其得罪於名教也愈益弘矣由是觀之人之學與
不學且非所論唯顧心術如何與所以為學之方如何耳

あるひとのはなしにいしきをうるにあらず。あるひとのはなしにいしきをうるにあらず。
そのらんぬけどもそのはぶそろはぶそろはぶそろはぶそろはぶそろ
し。酒色をこのこと達者なることおほゆる人はわるるもの
きらぐ。このこと華麗なることいとるくるをたをこうぐし
衰微きぐしときらぐ。ものうちうぐなる人おきをる
といそく事あるときはそのゐ先ぶぶきぐ。詩かきてこ
ざうしきこの。もてもてほといそぐ。そ人たぐしかぐ
とこうぐ。家に姫婦あるといそぐ。その夫ふもちなくもて
きらぐ。
をしむべしとおもふ。いうほどあるなるる。脾胃ひとつ。骨

節之うしうんむされつゝたる人よくやしなひおぼえ百年もかゝる難もあらんとてあらそひ出ずの疫病をほしいまゝにして
くらかの頭をもの言れそもをかぎりやきんなく暑気をしみてもだるのあるを事も多くその名ひゝを郷にもいで
うゝ芸をうゝとさく人ハそのごとうゆさ駆かゝ馬ゆむちうゝ
ゝなるゝいづくんをもたれまハくさ草ゆゝ
芸の国〳〵朽ゆくをそ〳〵芸第ゝいきゝ〳〵ぐうれ
ふゝゝるゝまづ貧〳〵とつやうほくもあるぐきちうなきも
のハいう国ど見ひそもゝうきゝセゞ〳〵てゝ手前よゝ〳〵さく人

ハいゝゝてゝうきゝ紙めゝ人れくあるのゝおゝひいゝあく仁
義紙おゝなひおぼハそのの風義ゝむまゞゝ孫ゝけゝけゝめで
ゝゝきゝ〳〵なゝゝくゝゝハなゝゝてゝその多ハ人欲ゝをもて貨
あゝもゝ事ゝきゝてゝそゝ孫ハ人欲ゝもて貨ゝゝゝのゝゝ
きゝてゝ中庸代なゝゝといゝゝゝゝゝ康ゝ積ゝくゝく
きゝ紙ゝハおゝゝゝゝゝゝゝ失ゝゝゝゝゝゝゝ
土地人民をゝゝゝゝゝ天地ゝゝゝ
ゝ事ゝ始ゝゝ其数ゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝのゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝあゝてゝその石花絵ゝゝゝゝ傳ゝゝゝゝゝゝゝ

しあの名さうぶ事にそのけうろぐあるこそ
ぶ事くれくむなしくしつる物おそうぶ物でいとそそ
宋儒の学問明の人は迂闊なる道学気味なる人は巾の
元などいひてあざけりこそ多し堂々の国まで路
も夫れ程にぐ物をうれといつばそのうれあるうう
をつしとおそくるさもあるくしされども儒のこぐ物
ぐうるさくこんさはやうんして熟をされるうるくこうな
物はよるあらつ学なれども長なれば堅氷をひいてん
とおそるまを見ひ仕る
程朱の学問偏ぜる人あるこしよ愚誣の失あるを見て汚書

のをつ人物度をこんひこしかぐしとあるを通されるへこ
いこしこそ
天下物治るあるは国よあるく物をして まづその国物を
さあ国を治るのをはは国ばかりある事物をして まづその家
物をはくあ物をはくあるのもはあるるの物をして まづ
その力を傾め力物をこもれもこんてうるある事をこて
て まづそのこころ物をこ人こうこ物こうこるのもとい
こころで物をこんこんこるあること物をして先そのこころ
で物をこんこんこうこで物をこんこんもとはこるる物
いこんこんあるこのをこうて まづそのこる事物いこうこ

をいてものうれいこころにあるものなれば
なほいふこころれば格物致知といふは天下國家身心意うち
まてはおのおのなをきめほかまてはなをもとめれば上
まつさそきくのなをさハ先てわがこころにあるものなり
ぬうれもこころ事ないてはおのおのなをもとめ
もこころばかりとなりぬるこころ〜たるこころハ今のこころめて官府に臨
めれ人日帳記録なれ考へて故事先例をもとめ功老の人に
もたらす自分にうもぬるこころおもひてそれくのわきなれ事
なれこころ知ものをえて格物致知といふ事なれもこころ〜もこころに
王氏の説に先分わうこころ時筍なれそのなをもとめんと

せこころといふこころ傳習録にこころこころこころれハ格物致知の極功
なれこころこころて一草一木の微なこころまでといふこころこころばよかこころ
本注の物ハ事なれこころ〜ものなれこころなれこころこころこころゆこころ
先王の大学なれこころけて人なれをこころ〜なれこころ〜ものなれこころ人をえ
らびもの士大夫なれこころこころおこころおこころいこころて大ハ朝家の補
佐こころこころなれこころて一郡一縣なれこころこころ天下國家の治
平なれこころこころなれこころこころこころこころこころこころこころこころこころ
倫なれこころなれこころこころこころこころこころこころこころこころこころ
日をこころこころ上のみこころこころこころこころこころこころこころこころ
こころなこころ大学なれこころけハ実用なれ事こころこころこころこころこころ王

氏なれなれの理窟をいはんとせられ、いづれせられる
まで、ふてぞるあるべくつとこれて空めて未空の説なる
べしゃうさんのいつるは忠孝の理をさいはもとつは親よ
孝のみを。君は忠義をもつて理あるゆゑなりとその
理をさいはむる事ないつてはもちろんまで親は
見しをくこと孝義なりを。君はわまを我をごくこと孝なり
忠をたてるをいつるは。なるまの人生はかくこれ事なるんやいはは
どさ、孝をうるもさおかはあるまを。忠孝は理をさいはむるといい
ふて同じくいさむるまを。実はかんをせ我をうして詩をるべ。親
は親をくよ侍るべ。君臣はものごとを義を主とし。父子は恩ど恩

をもつて。君臣の間は義。父子間は親。夫婦は道あはさまをさは。父子間は親。夫婦は道
してもべべなといつるこを我も。老化君父子は。つまること。
千緒萬端これをきくのもちろん我をもてもるるた
孝の理をきはむるるといへ
格物致知といつる事。その説は。ものを。ものを。人は。必ず
をくちべべる事あるを。かく人のおのけをれるよあるる人
ゆゑなくてあうたべるるたなく。ふるおぼるをうて。行す
べやとをひるよ入れの格物をもつてをくをくとかるるく
わるひをこれを王氏の筍をひをくをくとをべ
うをねれるちひいうなるゆゑをれをやをひ人あるるを。

気絲に地沈めバ溢てまて潮となる気絲こと地濁ゞハ
縮てゝ汐となる故ひうゝ人のいひおきゝさ
もあるゝゝ・されどかゝる事ハ老ばゝくさゝおきゝ
ら日用のよゝをもちひ給ゞ・もうゝゞバ隠
さゝ球もゝ乳のあやまりのゝ行ゝ・貞享ム年
流星あゝて天あれひゞ南のゝみゝのき谷のゝくゝ
たゝよゝゝゝ

の體(テイ)なれども、やはり分のうちをもはなれもあり。柳生(ヤギフ)の流(ナガレ)
ゞ。澤菴和尚(タクアンヲシヤウ)は袈裟(ケサ)なる屏風(ビヤウブ)をかぶりて左刀(ヒダチ)の法(ハフ)
を悟りしといつるもあるべし。世間どある人のもてはやし
ゝなる人碁(ゴ)なりなるべし。ぶそうのよはをしへざるゆゑ碁
よりなるべし。ハ世碁うて武道をあはせるべし
どゝてとゝなるべどうてなるうでとおもひをしへとさ
めとうゝしうなん。小藝(ヒウゲイ)小技(セウギ)なれども、ぶうふうぎなるの
あり。古人(コジン)の言葉(コトバ)なる。天下(テンカ)は一局(キヨク)といつて、ふかく心を
用(モチ)ふるべきなり。一局(キヨク)なるべし
碁(ゴ)をおうしをものなれど、國軍(ゴ)をあいてをなるべ

きゝ多し。ある碁をうつ人のうゝをよいる人のうゝをよ碁(ゴ)
うゝをんとなるべ。ちづんの工夫(クフウ)をしなるといひしとぞ。こ
まつたよの碁うちはあるまし
學問をうゝどよゝく事ハなゝ文学問をうゝどおゝろしゝき
事ハあゝ。むまれつき所(ダ)をしを人のうゝのまなびしなるを。
ちうゝあるもの。やはりとうでなどあるゝひしゝくよゝ
まれびていよゝくなるとうれどむまれつきいうやとゝふ人の
おもうゝたるあるゝ人ゝふけうゝひをゝのちうら
たうゝしをもうやうゝでなをもうゝたひしいよ
しまなびていよゝあゝうゝれ士大夫(レイタイフ)といつるものい

づまつの科擧(クワキヨ)よりもまみ学のせぢぐちものやあることれど民を
そこなひ国をあやまることなどいひて今れせそこでふく
こそこまつる人をこそ用ひらるべかるべきもてこそ
ろしかるべしといふやの莊子(サウジ)の儒者(レウシヤ)は詩書(シヨ)をもて法家(ホウカ)の
をあもくといつる誹謗(ヒハウ)もてあるべ

自注(ジチウ)ぢうぢうは不(ナ)善學(ガク)をもて疑(ウタガヒ)善學(ガク)をもて致(ヒ)
いつもに仕(ツカ)ふ其(レ)或(アル)有(アル)所懲(ヒ)而然(シカ)歟

大事小事ともに其国(クニ)の相應(サウオウ)せざる
ものあり三代禮(レイ)をおなじくせざるといつても時(トキ)の風(フウ)
俗(ゾク)より一揉(イチヤウ)もなりがたゆちなるべしぞろ

ぞろこの名る人は国(クニ)も科擧(クワキヨ)の法(ホウ)あるべからしかんと
いつる人多しこれをおもはざれば其(ソレ)ぞ其(ソレ)法いたづ
でたんやとぞ立(タツ)くおもふぞ其(ソレ)のつ紀事(ジ)を難(ナン)
づしまく其のえ益(エキ)をもとめやいなやとふかくれ
もぞまくもてえそもあるべしといつる事なきぞ

自注(ジチウ)此言(ヒ)以文應選(ヒ)本(ト)非(ス)斯(ル)國人所(ニ)能(ス)強(テ)而為之(ヲ)亦無益(ニ)
於治(ニ)也

そろそろの科擧(クワキヨ)といつるそのの国れいそ用ひなれどやむ
こそ我ぞそかもてそれどもやとくそろそを法(ハウ)といつるそ
あるべぞ行(ヒ)ろ人をそろそのこころおこなひ行(ヒ)そそんぞ

きこゆ。ふることばとて、そこのようにあいきゝわ、人がゝれ、
たゝつゝきいやゝきゝ給ふ。そこをたゝきなれど、
そこ分ハ用ふるたゝぎる人いろ〳〵あるべし。九品中正
なぶいつゝたゝうきゝ給きゝけて、人をえらひ、叶もあまど、
見もそめくれよしあるて、なれきゝぐられ、その法
もほゝ形、やうぬこのゝは国のきゝ国、周の封建うちこの
く、国〳〵の士大夫ゝれ其禄を受くし、いふけなきこゝろどし
きゝゝまであきゝゆゝきゝ〳〵みなれ人めゝれゝ、あ、ほま
きゝうきゝゝもちゝうきゝまゝのかゝらきゝきゝのをえらびて
用ふゝなきゝぐきゝろゝの科挙うて人をとゝゝはゝきゝ

きゝゝゝぐゝ
むゝう破古紙といつゝ系稍をきゝびして、ぬゝる反古紙用ひ
いゝゝて、人のわゝゝゝ事なゝゝゝ、水面のきゝゝ城きゝぐふく
ゝ、今もまゝあゝなゝ、いつの世ゝうあゝゝん、亀トゝれ
事をきゝんいゝきゝぐえをゝゝて、やきゝゝゝたあきゝうねひ
のけぐゝゝしくいゝうゝ儀式なゝゝゝとゝ、やめてゝゝゝてやき
けゝゝゝゝんゝゝゝゝの事をゝゝゝぐゝて、そのまゝ実ゝう
ゝゝなゝ事ゝゝれゝゝあゝかぐゝはぐゝゝんゝあゝゝ、ゝゝ法たゝゝよ
かゝゝゝれゝて人筆法のうちゝよ、あぐゝゝ鐙ふゝむゝぐゝゝと
いゝゝゝて、いのゝゝれ事なゝゝやとゝきゝねゝしゝあゝゝよ、あ

ぶるれさるいきをとゝびをうてふむうゝちなりとゝ
ゝしゝそゝ中国のあゞ鍼きてゝゝゝれあゞを
きるぬゝ鑿なりゝをゝゝゝゝゝゝゝゝ
龜灸鑽といひ灼もいひ契もいひ鑽もゝゞりまて灼ハ灼
灸ハ灼の同しく契ハ龜をゝゝゝれ鑿なり中国より伝く
しト法をゝんゝトハ字鍼象形なり咒いひ七十二鑽などい
ゝ義をゝゝ合ゝゝ中国より伝ゝ龜トハ吉凶を法な
らんと覺也吐ハ普ハ加身ひさの依身ひさの多女ハ
ゝいゝゝ非ハ変し涸よいゞよゆゝひゝゝゝめゝとさ

ゝゝゝゝゝゝゝゝ

とはかきたるなめとつくる。その人をてをやせる説とも多し。ある人の臆説なり。とは水ほい火いすくの事なり。書うへ。かゝは東方の震雷木なり。今もふるき国ゝはいづちも雷事なり。されわゝべのゝ雲なるかゝるなりといつるゝは西方の兌金兌は説なりとつゝろゝびはちむなり。法なれゝ。ゝ。ゝゝゝゝふくもといつるゝおなじ。なあは民なり。民は人なり。春鱗夏羽秋毛冬介おのゝし屬さるあり。人は中央ゝゝゝゝ

ふうをきちて安否をとくとはをしへ給てたう女ハ二十
まして嫁し男ハ三十まてめうかなどいつれも愛ヨおぼ
ふてのあるうをまれ縁をいそぐ我ふるれ通もきてぐる
わうきるぐも我とうあらせ家法のそんぞくをいうほど
もあるゆゑに大防をもうけ給ふなうあれども二十三
十とかぞうきるハあしび四十まて仕へ四十まて大夫
ふもうう七十まてにをかつをなどいつれもこれきとと
ろうおなじ。ある人舜水れをもゆきうのまなびせ
をうふ。内則のこゝをもうがひよふうのなくはおき
て父母の安否をとうけんとれば父母いまぐおを給ふ

父母おさ給ふ時をまちて内則ハ言ふちがひ給ふいふい
きふしきふうをとうとひ国の儒家といふ人乃ふ
けふふしも我ふて。ふれ国の書物よみ給人いふ者ハ義
理をもふ事かふてうきやうたがひ。ふぐ乃
ちがれうて意味の通ぜぬゆゑなうと。今ふて志ふ礼
ふて。大ふわふふ。舜水の通詞ち高雄某といへ
れふのかふてかふ礼ぬめ。ふうぐれハふふぐ
いふふ。陸績の母れ事ハ我ふを入て肉ハいつふて
四角ふ。野菜ハ寸をきハ入てきふ事なうとおぼえ
ハ書をよむ事のあきふのなうぬといふなふべ。ふれど

聖人は大防なやぶりて、ふまるることをいつはあらざ
ることをもてをやとなれかゝやうといつるものをとられかゝやうてさ
ふらぬやとこひ人ありしよ。宗園釈迦のよ歌などゝ。
まことのかゝやうをてきふらぬ。今の人かゝやうとつるを。
素王八佾節などの筆のめあてゝこゝろびたるまてこそその
法なりしなひさふらはぬ。変法を学びさるものゆゝしよ
こゝたうゝやうをてきふらぬ。もとのしやう二まれ筆
を第一とせうはそのはれ所しゝゆゝまるまうまへとこ
ろ〳〵とそ
あゝ人等法を論ぜゝとゝ。宗園氏の

毒を流せるやうにおとろこうといつて。学の中まゝ
らんといつて筆あうぎくまもゝてまりまるといのまゝ
あうぎくまもゝ知りてまるゝ。筆墨紙やゝ
風雅気質ぬちゝ。宗園の筆なゝ。かゝやうしいふえ
ゝゝ。ふれゝ。まるゝ。ふれど壺の碑
などゝまるゝ。かうゝ。今よちゝ
いゝまもしてゝゝ人の其論をもてまなひるばかゝや
うとなるゝ。名人のまなるして。石ゝばかゝ。学び
ていかゝゝ。仏ゝまるゝ。筆のゝいもゝかゝよをゝ
ゝとあゝ人ぬいつゝゆゝまるゝ。筆ゝまるゝ

支国の筆法といつて壬辰の乱ほどとりこまれて支国み
もとをるめ人のをそれ給ふ義の用ひつゝ人たらし
これと今から人めるものからをとられた者の意はるちご
ちごうから人の者れ言ものらしきを用ひかゝぞ
政 教
ようぐごくいつもをつてといつもこれ善ぜをめ悪ぜ
懲 勸
こゝ人のむぜ正しくして風俗をうけ人をうる事
なれど撰粗のうられあつてそのもうちごう婦婦
八嫁せごといつをそ八あれど婦八嫁をまごといつる
まをうごなをぜ人てをうごし。ある国をうし考し給
ば人のいうごきんあつて道をたゝぜ給つるのあるこ

をふうつよせられと市井より起し給つられをまうごと
ぜをもうぜをもそし八をもうぜをもうぜといつごし。そし
むごをうれあるを氏のつをせ人だごなどいつるたごひ
のこのくをうをてうれうぜくをうみをのけそれがけ
あうひぜをてうをうべし。そしをまが世ぜられいを
ぜをあうごしといひをうセうをなんがうあつてよ
をうごぜををうをへををそうたうをうとうつごを
いうごをうをうの政をごごををうををうをひし。約束あ
つてあうれをふうをう。政人うれはごかうやをう人うて政
いまごをををうはうをうごをうを

せよ名をいつる学者おほくあつて政ばかりしめば国ここ
ろ民やをうんといひ人あるとしは、あるへのいへる様
禹皐陶あつても上に堯舜ましまさずば唐虞よ治ハいと
しがるべし。おのよそ学者こころの根のつあるをあ
らねど、おのしそのうへ不ばかりそうこのもそのえ
ふ所に深淺強弱ちがひあつて一様ならねばそもしよ
裁断し給ふ所上にましまさずば議論のとおほく
つとてもむなしく洛黨蜀黨などいつるいづまも今の
学者ともなりとびおそれ学者なれとなりびいあるそれい
こゝはひよおなしいうるぶ所の理なりとそ思ふ

とていつどいつの人今の事をもさるぬ庸俗の人のようせ
て政をなさしむるとしといつるをあらず
おうしかるなるしやいつる事よ今のおほいなるかそう
ハあるものとおもふ事なり。荘老の太古ハ上下無為
といつるもちよ共工氏不周のとふまつるわくあまばこる
く毒ゐなるもあるべ唐虞の代ハ比屋封ぶべしといい
つど丹朱商均ましハ四凶あるをとまつて人賢智なり
ていひぐるしそれど今もかあう人ハ多ちざるる風俗
多く人のおほぜらあつまり難昌なるかいつるそれいつそう
ぐちなるやうよおぼゆむうし今れちがひそこしもあり

といふことをおくさぐんなるべし。むかしハこの不ようもくさぐ
もなく宮寺もなくうつくしくおほくハちりきむ
うしなうものしいふひ物つなぎといふど今ハ海をくな
ア伝ることなどいふことをいくくよ者ともまぬもう拙伝をいひ
伝ることなりあるなり昇ようなる人のものつくらぬてむ
うしの人ふるもちぐひうといひしよ者も今ハわれしこ
をひのちゑひるるはあるべそのられ伝ることあるう
今よのそう伝ることとうとうしとて
漢の高祖のゑれをるよ天下ハをて事をもいるぐ儒人ハ
るるひるあるべといふことハ宣帝の漢家おのつくり制

度あうといふことぐみハ龐徳公の儒生俗士ハ時務をもう
をといふことぐなとようをを樂とハいひぐしをられがあ
しをを樂ともおををつくべ人情事務をもをぐ俗
人の書物のこをみてこれぐわるを事をもて混沌氏
の九竅をとうぐふよ似ることをくれうべ政をもひ
て害を生をを事ををぐしぐ今ハ其のかくををきうて
上下やをくをめうていぐしてかくてなくうるもと
そのをやハかんぐくもうしハ人のをうぐて風儀ハを
なびをバ禍乱哉害の生ぐを事ハあるをうし
をのくをわうハをうがをきうしてあをを乃学

者ども有りて議論をなさせおきたるみいはゆるあさましきなる
らんと人ておもふこと事なれどさてあるまじ綱鑑などい
ふる書物を名儒の議論をあつめたる物にてもあるべし封建
の国ども国の大事なるべしといふことあり又あ
ることといふことあり伍子胥が父のあやまちを是れ大義
なるべしといふことあり又あることあり赤
穂のなるべし浮世人いひ合せそれ人のうれたる
といふたらうあるべしおとなるべし人学者を
あつえんでまたといふ裁許あるべきとしよりは上座なる
学者のいふことをきかんのかたちきれいなるべきなる

くもむなるべしといひしよりそのはたされ学者のいふこと
うるさ為慮置あるべしそのまうえいともむまうといひしよ
みそのつぎれ学者のいふことばいまく命宮ばかり
きる人なれば其の志は感じ給ふべきのはたさば
きあるべしといひしそれそれにむかしれのべ
これを学者ばいふ学者なるべしかの浮世人ばかりを
このえてかの事ばなるべきとみたるべしてそれ
いつり世の人ばのようなもなるその身れ学問
きるにいふゆえそのあるべし所やもきなれと学者ば
徒僧をきえて論をゆえそれ非をやきくばわれば

漢(カン)れ宣帝(センテイ)の俗儒(ソクジュ)ハ時宜(ジギ)を達(タツ)せざるのみていまゝ古(イニシヘ)を是(レ)として今(イマ)我(ワレ)非(ヒ)とし人(ヒト)を捨(ステ)て名実(メイジツ)よりもこゝろ所(ヒ)なきらざるもなくといつまでもこれ格言(カクゲン)なりとおもふべき事はおほくの学者あいまうさるゝこゝろなるべしつゝしわすれやあるべきを淮(レイウシレ)を夏(ハウ)とし人の法(ハウ)ちがゝ為てるをうれぐ政(シヤウコト)もよし好(ヨ)べ其(ソノ)おもむきもちがゝ為べし

青

火のもちよりびいるとの数万億(デンハク)となく田畠(ナハタ)よりさそれば四国九州の苗(ナヘ)うれかをうせやうくさるの我(ワレ)ともあるまこと種(タネ)のもとなりてもあるなるべしたゝ米のあるひたるくなるうるるめるる人おひてしその波(ナミ)なる東海(トウカイ)山陽(サンヤウ)陰(イン)よりでるおよびおほるふるるまちうづき士大夫(サムライ)家人(ニン)うれうゆを(球)をくるとしてとし我をぐせり此(イクトレ)数年(ネン)の豊(ホウ)年のこたぐさて稲(ヒネ)をはあれ人ハ米(コメ)あるひのいやしき我うるみあき人ハうれをのるくれる我うさ事よ思ひしかく我うかまりしき対するなるはけ米て豊年(ホウネン)あるうぐ紀をもるなるはぐしく学(ガク)のおろかなる人の貝(モクセン)をおれるものをおもひて長久(チヤウキウ)のおろんはうなるこうれこをを同しかるしとてぐしふるき人れお俗(前)をくるよ九千年まへ

凶年(キョウネン)あるべしとこそ云へ。そのゝち十二三の
ときに、凶年あり。しかるに、国々たるも
てはやしつゝ米穀(ベイコク)なくて、凶荒(キョウクワウ)さへ重故(ヘンコ)のて
なくとなげきなのなるに、国に十ヨひとつもなけ
れば、民のうちよわるべきなれども、銭つゐぬ
れば、あしき民の父母(フボ)といつゝ、ゆめにも思ひよら
ぬなげきなり。いかなることぞや
いつのまにかあらんとあらしをうつふる
きみよりも紀はうわてもこれとだつもあるべし。
あるときのよみ人なる人出ていつるを、韓信(カンシン)

といつるものゝ、それ名をのこせし囊沙(ノウシヤ)といつる事にて、
今は用ふべきなれども、銭を道をふさぐといつて、痛
きものゝいふやかくしてこそとひとりなるべし。
用意(ヨウイ)をせずあるべしゆゑいうべしいつて作んや。事
なる人べしよしふふ布をもてもてんとてよ
ろしかるべし。あるいはいつるべしして、人を大勢(オホゼイ)俵(モヨホ)ふ
くれはいなる米銭をせるといひしとぞ。文のよ
みてきものはてこさなくれば、その文案用ゆるべ
き書銭をて御(ヨ)をゝれば、馬(ムマ)の情(ジヤウ)をけくべきぞいふへ
をゝて、今銭制(セイ)をゝるの、事れ変(ヘン)は達(タツ)せざるといへ

言葉あり。ふくよもむ人はうるわあるべきうるわ
敬の字は主一無適といひ齊整嚴肅といひ常惺々法と
いひ畏といひ、いづれもその心極致をもとめうるを
かくていつでもうるわしかるべきうるわしかるべ
きうるわしいつるようにうるはしくなるべし。法國の人はうる
わしの字義をもやはりゆるぶうくうとなるべ
受用のまうつげよりなる事おほし
てなるべしとうるわ半字不成といつるかの人の俗語あるべ
も敬は工夫なる事はいつるべ
のべ〻くうとなるべうるわとかくべ木偶人のごとく

ふを敬とうるわあるべきはあるべし。瞻視を
なるべし。衣冠をなべしとうるわといつるも同法べ
いうるはのべ衣紋つきべうるわぬといつるべなるべ
し。程子は泥塑人ごとしといつる。一團和氣といへ
るにつきべいやしてきべ
うるわとうる人分のまうるはそこ。まうかうるかること
をしうるは容觀王聲などいつるをうれべどもをもべこと
なるべ
佩
おうるのといつるものがうる人はおびうるはうるそのうるはうるて歩
趨は節かくあるべきなるとべ。それのうるくけき

ゑけをけーめて片こうき
むさーのなるるー・往書れうちそて・一字づーあげ・そのこ
ろ狂いを漢語・まてこうたつまてそれいはるるの会得
よあーぐといひく・想れ字狂・おをひやうとこーく狂・第
一とせれーーなん狂ゑをーーつるや
父母ようたうるるや いつる狂・父母ようたうはるう とよぶこち狂
行といつる狂・こちをゆくとよみて紀といつる人あり・おこし
ろきんろ・よみあるるよ言ありよみあるてたーのなるう
ぬ文なあり・徳の字・仁れ字なとも国れこぐいなたー・
いーいつるるき・本義よかなるあてきるや

ある人ひとる狂・ふて・まろうこと・まるさ狂・ふてころうきと
まるる・明徳の發見なくるとかるうるに・善念れおこ伝
狂ふて・わるるるいつる狂・白こをまろうさ・まるさを
くろーーるるるて・善念なるるやとこるーーそで
自注・白ころ黒ころ是為明徳如何・曰見父母以為父母見子
弟以為子弟明徳也・父母則尊之子弟則護之而見馬知
其為馬而羈之見牛知其為牛而鼻之草為草・木為木・鳥
自鳥・獣自獣・莫不甄別而順處之・孰非明徳之發露者耶・
桀紂之暴・跖僑之盗・方其静居而無事也・東方發白而知
其為旦・長庚西湮而知其為夕・明徳昭然無時而休・然不

謂之德者何耶失於大也人之提挽而挈筋亦無非力必
也有孟賁夏育而後謂之力提挽挈筋者不幽焉何耶亦
失於大也

いうごとして学問ハ成就しゝ行ゞきやとゝひゝよ師なるし人
なるゝゝゝて志をしゝ学問といつてゝるその学のくゝ
とわゝひしゝまくいやゝゝよハあゝびどゝふけ行ゝて
ゝまゝゝゝと見あゝゝゝて学くなる油木流ありなゝゝあ
ゝれゆゝるゝゝゝ

の孔光揚雄などあなどちゐ小人といつるまてあるねど撰を
ふる事れ所ゝのなるべ寵利まるれぐるよりして莽賊
禪代のあひだよあるう汚辱の名をかうつほよりて
されハ曾閔のたくぶ所そねいとたふしこの臣説ハ固れ
謝氏の説ともちがひ小注の上等の人ハあくなるなる
といつるもそ大よちがつゝしハ一説ともなるべきこの
自注孔子の公晳哀ハほあ所つるこばめるもよ天下
おろなひあくして おほくハ名ほ所なるおいつる事
史記をみてそうけあるべしとおるる
天子ハ稱して聖主といひ臣下を稱して賢臣といるハ

上ハ千萬歲といひ諸侯をそなぬるそもに
千歲といひ常人をそなぬるそもに一百二十歲といるよ
ひとゝしくいづまて套語とまるべし康熙帝の事ハそもこと
一人よたつるしよ聖主とそもこしハ聖人なる
ゆとも國の人ハれそつるさまてあるべ美里操よ天王ハ
聖明なまて臣ゐ所ゝ誅よあるれりといつるハて聖の
字ほるくゝうひをなるる人ありしゆゑ凱風の母氏ハ聖
善なまて わまるよ良人なりといつる聖の字ハあるべてこる
つるさほ隆の光武帝ハ上章よ聖として事ハゆゝした
まハるそ非子ハ套語をつるなるいうとつるべし

ちこうしてなる城牆といひ、おほいなる城城といふことろこ
まてもろといつてろて、おほいし石垣築つきまつり、士大夫
ハつかまつりぬ、工商雑類まで、そのうちもとやしむ長
安城などいつる城こうてもろぐし、もろこぶ、ゆうなりけり。
ならこおほくあまてで、もろのかよもしもあれど、堀を築の
ホリ
おろこハ民ども皆堀の内ともあるなりとも、そこ
なるこもこもじの事なるし、屯田ハ開れもるのもある一重城
堀といひ、二の丸三丸丸などあれど、士大夫のこもろて、工商
雑類ハ皆くいしかこのみもこもあバいくこなどいつる
あしバ城もろハまて、そぞろこかつもろこの文からバし、

られもそこもろこ城まつりぬ、やこれどこれもよ
しあしハあこぶ
ものもこみなどいつるハ霧の字よろし、つの付ろの
あやまりて霞の字城用られどこれハほそろもこもよ
て、彩霞ものこハ、ものこ、などいつる、こなるこ
ねなこもの城いつる、水煙山煙煙景煙柳などいつる史城た
くくぶるハあこぶかすもこ事なり
士といつて、奉ろ人の事なり、子貢子路のもこもいつるし
ろこもこなこ人といつてこもやといつる事なるこしこ
ろりて、学ハ問もる人を奉ろ人ろし、屯田ろてハ弓矢

ゝる人を奉ゝ人とも武をたゝうゝびゝをたゝうとゝぶゝてのゝれ
あまてゝ農工商雑類の籍をあゝびゝて仕官せゝるゝごゝを
ふゝうゝとゝいゝまゝるゝ士あり
此國は今れ役ゝといゝつゝる事ゝかゝゝゝゝゝゝゝの三等ゝゝは官といゝ
ゝゝゝゝゝゝゝ

芳洲先生たくれくを中マ

芳洲先生高名ハ
ようろうしれ詩ゑの國の歌深奥(ウタ・シン・アウ)なる事かろうハあるべ
詩をゑたくろうれど、ろくハよみでぐしといふ人あり。先ハ
ろくろくあるべし。爲ハ中國の言葉(コトバ)なれどがくとゑてハ、ろくハ
あるといふ。よみあるものとそおぼえあれ
ど、詩をゑ作ろうれこそばなれどそくろく作(ツク)りて、大
方ろくゆうほどなれどそのろくもようとおるひんろくも
なへあくとほ先ろくろうわ、三のハ、よみでぐし。詩をゑたくろうやそ
ろくとゑなくろくもろくろう人ゑ國れおよもるあるべ
方ハよみでぐれど詩を作りがてとらぐし。詩を作り

藏原圖書之印

やもうさといつるを。ちをもつぬ人のこゝぞうといよみやさん
いつるを。その残まつぬ人のこゝぞうといよみやさん
事なるんや。又はゝるる事もまこゝろれるおなじ
唐詩鼓吹。唐詩選。いづれも唐詩なれど。撰者のこゝろ
あつてゝ書となせるなれど。唐詩れまつぬはあつぬを。
唐詩鼓吹をまなびて。音調體製。唐詩鼓吹より似られぬ。こ
れを唐詩とゝろえ。唐詩選ばまなびて。音調體製。唐詩
選より似られぬ。こゝろを唐詩とゝろゆ。さるはあるまじ。
詩を唐ようはかんなるはあしといつるは。別なるはあ
るや。その残ようくよむ人はおろひやすて。初ゝぞ

詩を作ゝるに。字法句法。ゝろを用ゝるはあれど。律詩を作り
て。章法ゝろを用ひ。古詩長篇を作りて。段落過句
ゝろ。残用ふはもゝ。これて詩を作ゝるの疏節なれ
どもまづこまゝろゝ入べゝと。功者ある人の語ゝ
ゝれば。詩を作りて。友なるし人ゝるんもし。詩の俗語
をいむといつる事。人ゝれもゝなる事なれど。俗語をいむや
いつるゝろは。ゝろ。此詩など俗意といつべし
をゝしうばげもと。見れられどゝれはきれもゝし
むゝるあたまゝがゝ。詩は別林ありとゝるはは
詩は該をゝ。平仄をあはゝるゝて。いのなるゆゝなるゝと。ゝゝ

佛人・此国よハあるもの・そろそろ人もろくよりせたんよ・
此国のそもぞ・ふくしよけぐ・きもくる・いとぐ・しく
そわけもろ・ぢらんやと・ある人のいつる・ぐもとおそひ・も
ろろ・そばろくもろ・ふいつる人よなづわ・よそろろ・
人のいやーき・ことば・ものと・負・ぜと・聲律・よかなくて・その国の
風・ふうき・ろて・かくそきつ・ぬ・此国の人れ・そのそぐ・まなびそ・
それほぐ・ゆでのわぼえ・いそで・うそ・ぬぐそ・ゆと・伝くさ
そろ・その字・じおん・音ハ・四聲・しせい・そなそろ・唇舌牙齒喉・しんぜつげじかう・のもちあ
さ・ゆ・うなれど・がそれ・字・音ハ・三聲・ぢ・あ・て・上聲・去聲・と
うまぐ・されど・唇舌牙齒喉のわもちハあるもの・此国の学

音ハ・字ごとに・平聲のごとくなり・て・上聲・じやう・去聲・きよう・もなく・又・入聲・につ・
もなし・ふつくらされ・ぢ・そ・字ハ・入聲・なりと・おほゆ・
ど・そもそ・そもそ・そなそ・そて・碎音・さいいん・そなり・入聲・
ハあるぐ・唇舌牙齒喉・そのわ・ぢ・なさ・そ・ぬ・もあるぬど・
国乃なくは・そちぐ・そぐちよ・そのいつゆもそや・五音あ
ぢやうなるぐ・釋徒・しやくとの誦経・じゅきやう・ゆも四聲わもてよそ・
あ・それそそろ・そ・ぬそのそぐ・そもる・祖師・そし・の・此国
ゆも・五音・ぢ・ぐ・ん・と・ゆ・ん・をぢて・そ・ぐ・そなれど・そもや
此国のなさ・ぢ・ゆ・ぢ・ゆ・ぢ・ゆ

国の字音まてゝそろうしの詩たゝまて調ふよかなゝぬ
笙をもちゐさせて樂なうなづるようひゝしゝ也後いくちよ
てゝうゝもゝそろうしくゝれゝといつゝたゝたゝるくハあゝう
たかゝぐし
也国まて音相通といつゝたゝかゝ国ゝう對ゝるゝさ
ゝとゝれゝゝう也国ゝ行まゝゆちむゝうハたゝおゝろはを
いつゝかゝ国ゝもゝのゝをかハ西域ゝういでゝゝ线まなび諺
文といつゝも梵字ゝなゝひてたゝゝゝと芝峯類説ゝか
ゝゝう・ゝゝろうしくくの音聖ゝ七音の作西域ゝうおゝ
ゝなゝぐれゝゝ諸夏ゝ入ゝゝかゝいつゝゝゝろうゝれバ西

域といつゝたゝゝゝの西の邊土なゝゝかゝゝ线メ〻めて
天竺ゝゝゝゝみゝうしむれゝゝゝゝ

夷(シナ)のそしり、うれしく其国(ソノクニ)のそしりは應(オウ)じたまちでもあるとと
なり。をそれつゝしみ下(シモベ)までこれをそちふまさんと自(レ)然の
こゝろもうまうかなといつてものなくバといつるハそ国くの
こゝろなるべといつるひとりかくゝ
此国の詩作り、文うけふ人をオ学(サイカク)ならしめバそこのくに
まこゝろ、ずなどいつるよさまでおろ〳〵しとおもふくい
うほどもあれど、こゝ筆のちうゝゆくまてそれのこゝろそや
めゝ〳〵といふべし
かゝる人と相談せしにつゝ国ハこゝ参(サンセイ)ならゆゑ詩まて
ハつくれど、歌曲(カキヨク)ハなりがたしとかゝる紀(カラ)人ハそのごとき

ことゝ思ひ、ゆゝしくこの国ハこゝ参ゆゑハなりがたしハなりぬといつる
おほえあまそ、此国の人ハそこしよつて詩なりと
おもひゆゝ〳〵
こゝろこれこゝばまこゝて詩作り、みかく事なるまじと
こゝろこしこゝまなどこゝ人こゝ笑いつるをこゝろこしのこゝ
まこゝ学ぶる人の作文をこゝるさまでかこゝ事なる事
まこゝとおもふこゝあるこゝのいつるこゝれこゝるこゝのひくこゝ(カ)ろこゝ
をこゝまこゝるこゝこゝ相こゝるべし。詩文ハこゝ樂の精華(セイカ)なるこゝの
なまこゝこゝ樂ばまこゝこゝしていつるこゝの精華ばもこゝづこゝ
此国のこゝ樂まこゝぬこゝろこゝ人ゝ学ぶもといこゝぶこゝろこゝこゝす

とおもふなるべし。されど詩文をよくせねばよろしく人い
うほどもあれいそがしくしてことばもとくて詩文をよく
せざるもあるべんぎなれ侍りといつるをそろそろ乃ち
勢ありてきたるも才学あるそれてる安倍のなりそ。(ヤウクカイ)空海
などいつる人ありそれぞれはをくれうべそれそまでをろ
ゝ。ゝそもそもゝいふなびきそれど侍俗ゝ文かくるの人ち
らそろゆえそれべうれてなきそをんてそろそろゝと
そをそてなをゝまのこ同志(ドウシ)の人よいでよかろそ
おようてあゝゆゝ文字(訓)よべ(平)有ば也國(音)のことばはなれどそをもろ
ゝ。めゝをなろゝそれどそをゝのゝをゝ似ゝる人世ゝゝ

くなゝ。風氣(フウキ)の異(コト)なるゆえ。きちがれい淮(ワイ)をわろて
化(クワ)して枳となるそいつる残ふべきなりといひよ也國
ゝそをゝ。ゝかんゝあんぽなどいつるものを樹(ト)をうつて出(デ)
羽(ハ)よ楮(ウ)まで。これ楮穀(コク)となるをいつちのゝろある和尚(ワシヤウ)
の御説よゝつまよろいはるべよろかんとつふをいろも
うはゝ。ゝあぢをひとをゝれゝまでそのをわをとろ
てうをゝ。よほゝれゝをゝをゝいてたまぶゝなゝ。地(ユ)と
なれゝとかゝろ江唐音(タウイン)もゝとゝゝふゝゝをゝをゝバい
つゝれゝ。中國のゝをとなゝゝ。唐音(タウイン)唐話(ワ)ゆなゝ人
いいつゝをゝ。ゝ人よなゝ(習)よろかあゝろ。黄檗(ワウバク)

の課誦（クワヒヨウ）ハ、こまゝ〳〵（タツイニ）尊（タフ）なれど、仏事（ブツジ）ぞやと、唐僧（タウソウ）ハ、
なぐさめていつこれも教（スヒ）のほゆハ世間のこゝろとな
ればこそ
そろこゝ〳〵ぞ、そろて上（ウヘ）よみくだし、文義（ブンギ）の通（ツウ）ぜるとい
ふことゝなるゆへ、おそろく人あるしかいこうとさ
おもゝれ給ふなるべし、されどそのごとなるこゝろそさふ
らへ、それゆゑ十四歳なるし時、そろこゝ人より下（ゲ）知し
給ふ文（ブン）あづけそろこゝろぐるまゝ、文字（モジ）れ遣ちがへ
ゆゑ、そろこゝ人よみうねさふひく、譯者（コトカヨヒスルモノ）ごとあり
まゝあらためて入せさふらひしとあきこのこゝろとて、時

よかゝこゝる稲某（イナヒガレ）といつこゝもの、俗ゝしかいげゝもとゝ思ひ、
二十四歳なるし、そろこゝ〳〵ぞ、そ我おぼゝ、そ
ぶそその事きけこゝろ〳〵おぼえしうこゝれうこゝ
ぞ、そもあそろかこゝねて、おぼゝ世間のこゝよみこゝろ
ちがゝなるゝ、それあゝの事ハこゝろ〳〵人こゝものかゝ
ゝ、そもこゝ〳〵ぞ、いこけなきけゝうまなぐ
れ人いこゝれゝ〳〵ぞ、こゝ〳〵ハあゝこゝ〳〵ぞ、学のけこゝのごゝい
ゝこゝのこゝめいひこゝ〳〵こゝかゝこゝれど、のもこゝハこゝ
ゝこゝ〳〵ぞ、こゝ無（ムフン）別（ベツ）不（フレウ）了（ケウ）簡などいこゝ、無の字ハ
の字我こゝ〳〵ぞ、そこの通れこゝ〳〵ぞ、ハあゝれどなゝ

ゆゑ[illegible]おもひ[illegible]耳[illegible]口[illegible]もいへも
ろこ[illegible]ゆゑ[illegible]と[illegible]ことの[illegible]と[illegible]
[illegible]て文義乃通ずる事人[illegible]のゆゑ
[illegible]もあるべ通國の法となし[illegible]
[illegible]ふ[illegible]ゆゑ[illegible]
[illegible]ゆゑ[illegible]年[illegible]
[illegible]ほ[illegible]ゆゑ[illegible]
[illegible]なる[illegible]ゆゑ[illegible]
[illegible]國[illegible]文[illegible]
[illegible]人[illegible]

文[illegible]の法をも[illegible]人の及ぶべきもにあらず[illegible]
[illegible]書おなじといひく[illegible]ゆゑ[illegible]
[illegible]ハ文字[illegible]ハ文字[illegible]
[illegible]ゆゑ[illegible]
[illegible]ゆゑ[illegible]
[illegible]ゆゑ[illegible]
[illegible]人[illegible]
[illegible]
[illegible]

ある人呉音漢音といつるは、ぜんぜんしゆゑ、呉音ハ韓の字音、漢音ハそろそろの字音なるて、ちつぬ、それど年をへていつもなく、此国のそろとなるそろなるやそろ、つさ

鐫旦の執政そろそろ、時、百済の尼法明といつるもの、勢馬よさそう、維摩経ををへしそれをたしやそろみといひて、呉音のそろめなるうと、政事要略よまそせれといつて、此国の呉音といつるもの、今れかろ人の字音ハ似ようそれどもも出ねの招殻ようて、ぜんめ法明ぜをへしそろをかろ国の字音なるしかど、いつもなろ今れ呉音となるこれとそ

ほぜ

呉音といつるハ法明ぶ維摩経ぜをへしそ時、それハ呉音なるといひしあるよ、此国の人ハそろそろなるぶしそ、その国の字音をそをへしそ呉音といつるそかろ国の人とそろそろ事ぜ、今ハ江南といひぜむそしハ呉ともいひそろ、ゆゑそれそろそろそろといつる事ぜ呉音といひそろそろかろ国も此国ハおなしそろみいその国れそろそろなれどそろハそろそれそろとすなるびて出ねの招殻となるそろ

聖武帝の御時吉備公入唐しそろ帰朝あるて孝謙帝

の御時十三経はじめてつたへられ漢音はじめてつたへ
と見聞抄にいはく今の漢音といふものは
はもろもろ音はいはの根殻となりさきくしてもろ
もろもろごとといふ事を今は唐音といふ也もろもろは漢
音といひつたへなり
自注中臣鎌子為内大臣在三十七代　孝徳帝朝而吉
備帰朝在四十六代　孝謙帝朝案國史十六代　應神
帝十五年百済國王遣阿直岐貢良馬阿直岐能誦経典
太子菟道稚郎子延以為師阿直岐薦同國人王仁以為
勝於己乃遣使聘召越翌年来朝亦師事之此時阿王仁

人所授者當是韓音蓋韓音即呉音也則政事要略所云
呉音始於三十七代　孝徳帝時者似乎可疑豈時世悠
遠國の唐音はなほなづる人はいとうとみくだして文のなど
もいとはれるゆゑにそのことばもやをくどくて
やもすれば仏もいづまも唐音をもはぶくなど信使のまうこと
ひもすがら中学士といふものをもつて唱和集
みえたり
孝謙天皇の十三経をもつたへしも吉備公帰朝れば
もろもろごとをもつたへしかばもろもろの仏もはぶくなり

ごとくなれど甚だかたき事なるゆゑにそなはりてまなびるべき
なり。字音も其まゝなれども、なびくゝなるべし
文字といふものもとゝろよりしたがひてそなはり
かゝるに此國もおのゝその國ことゝなりてそれどころハも
ろゝ〳〵まなびおぼゆやあらぐさ出羽の根殼なるうとゝれと
いふゝゝろにぞなく字音も此國ことゝなりたるや
うにおぼゆるとおろのなりといふべし
知客（シカ）といふ事ゝろ〳〵の字音よハたうけといふ我此國の
人それをまなびいつゝなく字音かゝりて今ハさうといふ
かゝるゝゝろ〳〵もかゝる事あり此國れかけもゞとといふ我

まなびてかゝる人ハ各其素利（カリ）といひ此國のつゝ我といふ我
をまなびてゝろ〳〵人ハ讀急（ドキ）ゝ土器（トカイ）といふ國
氣（キ）のちがひ聲音（セイイン）のおなじかゝあゆゑかくハ變（ヘン）ずるなり
ちうにあるゝ古童容（コトウカク）我ゝゝよむゝゝゝとてその國ゝ
てゝてもやゝるけものゝうゝてその國れことゝるゝを
んゝゝゝゝあんといふ我此國ゝてハあやまりてむすこ
べやといふなうとかうれあたまゝゝゝるゝハあらぐさ
めゝうゝんゝゝゝゝあんといひしゝゝといふゝゝゝ變（ヘン）じ
てむゝゝゝへやゝゝなうゝゝゝなうひとつを擧（アゲ）てようつゝゝる
さうなうゝゝゝゝゝ今人のなるひおぼゝゝる尾音（ダンイン）も

ゞしくなりおびられも出羽の相撲りて漢音呉
音もまじひ（チガ）ゝろ〳〵ごちもあるぬ〻〻一揉の字音
ようなり今の清音呉音れ事ゝいつゝぐ〻〻この元音
といつゝるのいぐゝしていぐゝきゝやとゝろがゝ〻〻
助語（ゲヨガ）の事たゞよし人あゝ〻〻よゝれを中國の人れゝ〻
がゝ紀事なゝやゝとゝゝたゝもゝるゝゝゝらもゝなどいつれ
をいゝゝしてゝ流ゝ〻〻くゝゝゝ中ゝ〻ゝんやいゝはどゝゝ
くいひをゝつゝゝとゝこの國れゝぞゝゝでハゝゝゝゝ
ゝゝゝちわゝまゝあゝゝゝ中國の人ハゝゝゝゝゝハゝゝ
無作あゝとゝおゝゝゝゝゝゝゝゝてかけどゝのゝゝく

ゝゝゝゝ人のゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ

悅懌憂喜いつまつもようろうとよあれどそうろうつかまつりづ
ちゐつて正適方といひ須當可といつてもまくこうまつおな
じかはそうぐくはいこのわちあつてそゆうきを文
をもてうみやくこうぐうろうを文をもたてうぐさなれども國よ
てそうちうみる事のこおほしといつて
おなじくおろかなるかをようめど贛の字ハほうれみよりまさ
ひ贛類勇而非勇といつてくさいてんぽなるくろとろて
戇諫といつてくさいくぐだうなくろとろ文字事
こうるさうなれバ此國の人をろくしの文字きろう
かくしといつべし

此國れまかなりてかくろう文ハ文字れろうるさうれ
あうといつてを古学義のいぶなれ
ばかう手かえたるめ法ハ擇文などいつてうゆく
じまろう文の道をいけきやうにおほゆ垂加義の經学
をいぶなれしまなるひそのいこうをもうぐと
いつまつしこれバ詩経のなんで害あくんやといつて城不
瑕有害とうき荀子のうきを文王れうとうといつて城文
王之為子とうき禮記の山者不使不使渚者といひ春秋
繁露の不可一日一日不可といつてなど文字れろうる常
ようちがひいつても多し其ひとのをまりてやむでうもう也ぞ

かくほ顔ハさろうしてばよく学びてろうへて其決を初ぐさ
此國の人どもろうしぶろうもむ事ハろうしてしぶかるさのなり
さかうに記事ハ文字くまりくまりなバ自然と工夫し新くなるもろ
うのみよ面もぐさまやおろうて我ものと常れる義ふといふ
うのあうじみみぐやいふものあうじみる繁といへるハ其文繁
ちなろうして文義ふつぐさやろうぐさ自然のひぐさあうて聲
律よかなれバぐろうやろうぐさみやろうを文を繁といふし
ろうしれ文此國の文ぶれうもハちぐど其ろあうハ
おなじ山國の名ある俗字文城ろうみてろうに文繁ちぐさ
自然のひぐさあうて何れうちやろうにろうおもしろく

おぼおろうて此國ハ聲律ようなぐぐろうしみの點ちぐ
山國の文ろうなろうハ字城ろく解し聴訳もなく文ろ意
ろうもむ文字ハあうてかなろうてうるる文の義ふちぐ何あうど
此國ハ聲律ろ記ちれるろうちれるろうハくろうあうて何えう
たろうよみがろうしろうのちにいでも此國のふろうろうちぐれろう
といろうろうのつねのろうねバ文のろうろうもたやろうくハ
ろうぐろうしぐろうの文ろうろう事あれいろうろうれ人の弱き
ようろうのろうちれ文ちれ文ちれ文ちれ文ちれ文ちれ文ちれ文
ろうろうしろうハいろうろうやあうぐぐろうかろう人ろうもあうぐぐろうろう
ろうしといふ事しろ

たまけ（助）ことだといつて、かなぶつを用ふるけごろ、してなどいつたぐひなり。ことばのたいてちがひさま事、記事（次第）乃ようまでどうまけ多く、よみといつたりのたぐひのこと多くあらぶるいつたりなどして、よろしくならひて（学）（習）ならつといつる様、そもじめは国つのけことばにはかなぶといつる事様、けいこなどいつたりなどいつたりなどして人なれならひ事様いひて、熟（ジク）ことばなどいつたりよいあんばいよろしくといつたりなどのことをまいちうくかくあらゆるものをおろかなる人をもつて様してゑらいくんようくいひきつけてもくるかゆる様まあるあるあるあるうう

人れその国のことばをうけてこころをしふる様なれせるをんるるこれをもそ国れ奉律をやうてよみうるんどよることいこなつめれ文集なるをいはをうれらるべまてみのこころやもるまれ国えやもをいこらやのしといつべしこうかるべこうこうかれることうそもを事などあ侍るを（後）るをかきうんんこの国れることばうても国の人と。ることをうこうるるあるいはなうんとおそくなるまでさるてあるべそのちるいうなどもまるべれ事いはあまでど。あるき（前後）れ乃ちうあひまでかるる事様いるかうとまるくうけうこうもるなるこころしのみるむ事もまるまるなる。

史記漢書なきいつくしきの朝夕なれくそのまもしたうさ
ゑうらうまなまびこれをよむよなれたるこもなくうま
くがてんしなるやうよおぼゆきどこれをうへたまられたり
あひまてがくふまなりとたまれどくそしくくんまバ迷さ
ゑ繁とおくふうもちよいうほどもあくこのなくぬ事多し
そのあくこのなくぶくしして泥膠をる事ゆくく
よかくたをけくもなくぐこれゆゑ擇語とつまくこのづ
さたまるけよなんじかくへやとおそれなくさうもあ
らねどやまをくされをてくこわくさくよバをく
ばくさおぼゆくきふこどもいうほどくたくぐくなくれバ

をくくかくをくきまうてあくねどよがをちうくさばくうる
はくくせば豆なくさよハあくをくきれどくをくまてかくこ
き人ハをうくおくをくなくぐくくくくくくくくくくくくくく
ほくまれをくくまはをくけくハまれなくくくくくくくくくくくく
を位まあ教人まゆづくうくなくふくくくくくくくくくくくくく
て先豆城をくぐくふくはくまれくくくくくくくくくくくくくく
ある人ハ得くををそくくくくくくくくくくくくくくくくくくく
小傷にの悪業をのをあくさ出くくくくくくくくくくくくくくく
見ハまくくハおくくくくくくくくくくくくくくくくくくくくく
うかくくかくさあくはくくくくくくくくくくくくくくくくくく

をうえてかうちをおらんなどれはさぞてこそもとゝ我知
るいまゝにさゝまなれど末のはひえある事はゝをき
いひそ、そゝをかしと乃いのぐ やともゝぐもうはさし
明れ陳継儒ご佛氏を天下乃大養濟院なくといつるハ事世
乃特見なゝべし・韓退そしそ位よりてその事よ任ぜゞて
おほゝくハ三代をゝよりてけゝくハせ ゞ
五倫といつるを天下孫繁なゝ君ゝいてゞ器の
親戚屬し・臣ゝいつるを士大夫の朝よあるゝのけゝにゞ
らを農工商婢妾奴僕ゝなゝそのうちよゝゝれを禰ゝりか
ゝけゝゝゝ孫ゝ志ゝつゝ祖ゝいひ孫ゝいつるを父ゝよ

屬し・再従ゝ従黨けおなじゝゝるハ兄弟ゝ屬を
おつゝいへハ夫れ親戚屬し・婦といを婦乃親戚
屬を朋友ゝいへハ是れ異ゝるゝ人いやし・
してハ鰥寡孤獨ほうゝてハ交教雜業ゝ朋
友よ屬せゝ・ゝ生ゝぞ天下の人いゞ生ゝ我ゝ偏ゝ市ゝ
らゞ従・一視同仁ゝてゝゝゝ慶ゝゝ義をゝを教
をいしゝのみちゝはいつるなゝ
善をゝゝゝん悪ゝゝゝゝ事・ひゞをのをゝくほゝけれゝちゝ仁の
ちゝゝひゝんやといつるゝのあるゝしよゝさハはゝ事よ結を
ゞゝを善といひ悪といつるゝゝちゝひあゝべゝれとあるみち

まゐる人いつるとぞ

杭州道林禪師人目爲鵲巢和尚白居易問佛法大意師

曰諸惡莫作衆善奉行

ものゝ人やいとまゐる人ハ鬼神れ事ハ敬そこゝろおしへる

をれ行ほしゝゝ事ハ公の人乃ほとけ事ハ法ほとけ祇をたふ

とぶをえむせぶにより食を慶ゝゝ天ハ天地球

ほとけ事ハいつるとぞめ繼ぎ事ハ法をこゝ事ハさゝ

あるべ

ある人ハ聰明正直ゝゝて一なるがいふ法をあゞく

聰明とハいかゝいひ事なるゝと事ぞ

ゝれおこ事ハそのまゝ行ハてとわが師なゝし

人ゝゝらまゝ事其度ハ佛ゝる人をいゞまゝ世をこ

ゝ水球ゝゝゝゝるゝおぼえ感悔ゝ事ゝ今かさ

つけゝゝゝまでゝ事ゝゝゝ事ゝもあゝわゞほゝと

ゝ今得しゝる人のいゝ詩れゝゝゝ人を感ゝ事

あゝゝゝ頭上ゝ人れ天といゝゝハ事ゝ事わゝ世ハ

ほとけよかゝれ

ゝ國天ゝれゝゝ人球いなく禁ゞ行ふ遠ゝきおゝんゝの

事なゝとゝゝゝゝ

やといゝゝゝやくれ事に来ゝ世ゝゝおゝゝゝ球す

でよ誅せらるべきこと疑なしよって其やうを後人
綱ひて云ふて正徳れをしめあげまてめされあげく
是よおこるまこと云る。それ云ものきりて智恵あるをいへる
人そのゝなれ事どもはしくこと云ふてをり〳〵ゆき
てあひ云ることが其をしをさくし稚氏のいつるを拙の
云ちがひきるまでるくかそう寄る事なるれでこと
よも寄ちこどちふつてをひとがこはひのあげ学こ
んよりすまてのくつかをひ伝ふをかそうしまい妖人の
人をまがきを事まにおそろしきるのなりとふの
くあやぶそ〳〵よそふようみよもあそうをさでひそこの

よそのはをそバなるこのよはるへしとふるあら
きがにおこなそれさ
梵之の熊渠が石弦則律なりとれをひてやどア弦かをら
を王充が論衡よ誅なりをいひしそころいるみと求
ろちまるる人よたがひよ必事あるをきもうよ
きものくおこさあきものをたひのうげして出る弦アをく
ちのをあを土ア弦とあわしこのバそ弦ハをが力れ力
ろてそちあへそまもはるをといふでるく
ぶりあるぐしいしとやとハほのれものよはるへかき
いしはやちるのはなるをろきやのはよくなるをあり

やあらぐき・ふまんなれば
はるなり・ふもやもらるに
天路へとて・そのもハいくもなるもとぞ
近江れ・ふ力おもの沢をもらひ
まさらんしまく・あるひ
まち侍・をもれさうくし
ひらこと・ごろよそ
ゑをもて・そまこと
きるれいつに
つるあしんおほぞや

試 慈

ハ世をそ・れ・稼氏ハ世
月所とうろえ侍らんやとひ
ろまし・ものぶ
乃中ハいぶ
やらたるし
うう侍なり
しいれ事な
ゑゑう

世をのうる
へふ城はし

荘老
ハ世をとゝ
ゆ侍ハ世のなる
名をしゝ

かゝるものゝ作いへる紀行を第一
とし第二とは凡例
乃大略志

芳洲西書記

橘隠茶話

芳洲先生隨筆
全部三冊　既行

芳洲といふは對州の文学なるもの此
書を著して家に乃こせる正信
使に対彼國の正史趙泰億といふ人
留ありて四絶海詩の士芳
洲獨ぬけ出て能通法國語且通
ろ亦書を拓寧飛筆盡
弓餘明朝萬里別回る意
如芳洲の才を主とし

孫吉

鳩巣先人直指跋

寛政紀元己酉秋九月發行

大坂心齋橋筋南久寶寺町

伊丹屋善兵衛

書林